ANTI-MALWARE AND ANTI-CYBERATTACKS ENGINEERING WORKSHOP

MWS

MWS Rescopeとは

2024年12月25(水)

MWS 2024 実行委員会

本日の議論

2024年は、MWS Rescope後の最初の1年でした。
MWSトラックの論文数は約52%増加(2024年41件、2023年 27件)

議題

- MWS 2024を振り返ってMWS Rescopeの結果、我々が期待した結果となっているのか？
- 今後、MWSが発展し、その役割を果たすためにはどうすべきなのか?

Rescopeに至った背景

- MWS 論文数の減少
  - “マルウェア”に直結する研究の世界的な減少傾向
  - 一方、システムトラックの論文は激増
    - MWSのスコープになる論文がシステムトラックに投稿されるケースも存在する

- 攻撃の多様化
  - サイバー攻撃において”マルウェア”は、1つの手段になっている
  - 研究も多様化、細分化している
    - MWSでは、**”マルウェア”**のみを取り扱っているわけではなく、”マルウェア”を中心とした**”サイバー攻撃全般”**を対象にしているはず。
    - 一方、”マルウェア”に直結しない=MWSでは無い。

MWS Rescope

これまでの16年を振り返り、今後 10年先を見据えて MWS が発展するために取り組むべきテーマを議論し、分かりやすく表現・説明できるようにすることを目的とした。

議論を経た結果として

①MWSの活動目的・スコープの再定義

②活動目的・スコープに応じた名称の変更

がなされた。

活動目的

MWSは、サイバー攻撃の一端を担うマルウェアだけでなく、攻撃者やTTPs(Tactics、Techniques、Procedures)を俯瞰的に捉えた対策研究を推進し、人材育成を行います。また、新たな脆弱性や攻撃手法を発見し先行して対処を行うオフェンシブセキュリティも、攻撃者による悪用を未然に防止する点で、重要な研究領域と位置付けています。さらには、将来に渡って必要となる対策技術や人材育成に関わる新たな問題提起を行っていきます。

主なトピック

関連分野を含めた活発な議論と連携に期待

- マルウェア検知・解析
- 攻撃通信検知
- インシデント対応・管理
- 脅威インテリジェンス
- デジタルフォレンジック
- 脆弱性発見・対応（オフェンシブセキュリティ含む）

ワークショップ名称

マルウェアと**サイバー攻撃**対策研究人材育成
ワークショップ

anti-Malware and **anti-cyberattacks**
engineering WorkShop

MWSは、マルウェアだけじゃない！

マルウェアを中心とした、サイバー攻撃全般について研究・議論・人材育成をするワークショップ。

これまでの活動は継続しつつ、その内容の改善や新たな取組の検討を続けて行く。

本日の議論(再掲)

2024年は、MWS Rescope後の最初の1年でした。
MWSトラックの論文数は約52%増加(2024年41件、2023年 27件)

議題

- MWS 2024を振り返ってMWS Rescopeの結果、我々が期待した結果となっているのか？
- 今後、MWSが発展し、その役割を果たすためにはどうすべきなのか?